

# 長谷川豊の部落差別発言を問う

7月の参院選で日本維新の会(以下、維新)の公認候補として出馬予定だった長谷川豊がおこなった悪質な部落差別発言について、5月の発覚以降、本紙では毎号取り上げてきました。長谷川は、解放同盟の抗議後、いったん謝罪文をネットに掲載したものの、堺市長選挙後の6月10日に公認を辞退してからは、一転居直りを続けています。その経緯と問題点について改めて検証します。

## 問題の発覚

長谷川豊の差別発言が発覚

覚したのは今年5月15日。2月24日、世田谷区議選予定候補者の応援を目的に東京でおこなわれた講演で、江戸時代の被差別民は「プロの犯罪者集団」「レイプ集団」であるかのような発言をおこなっていたのだ。この講演映像の一部がインターネット上で流されたことにより発覚した(問題の発言内容は左の囲み)。

## 謝罪後、一転して居直り

これを受けて、部落解放同盟中央本部が5月21日、維新に抗議文を提出(兵庫県連は同22日)、24日には長谷川本人に抗議文を送った。発覚当初、長谷川は「歴史を述べる事が差別発言ですか」と居直っていたが、22日、公式ブログに次のような謝罪文を掲載した。「一部の身分の被差別者を犯罪集団だった」と言及したことは、『差別の助長』『差別の再生産』を聴衆の皆さんにもたらす弁解の余地のない差別発言です。全面的に謝罪するとともに、完全撤回させていただきます。」

## 発言の問題点

江戸時代の被差別民についてとり上げ、「当然、乱暴なども働きます」「相手はプロなんだから、犯罪の」という長谷川の発言は、被差別民を犯罪と結びつける悪質な差別発言であり、「部落に向けたヘイト・スピーチ」に他ならない。絶対に許すことはできない。

現在でも「部落の人は怖い」という差別・偏見は存在する(2010年実施の「大阪府人権問題に関する

その後、長谷川は6月10日、維新に公認辞退届を提出し受理された。その日に公式ブログに掲載された文章では一転、「切り取られて編集されている」と居直り、「これが反維新。デマでも編集でも何でもやってきます」と、維新への攻撃だと問題をすり替えた。しかも謝罪文は維新の馬場幹事長が書いたと、「完璧

府民意識調査」など。長谷川の発言は、そうした差別・偏見を助長する行為である。しかも、公党から国会議員に立候補予定だった人物であり、影響力は小さくない。

また長谷川は6月10日のブログで次のように書いている。「僕らの世代は、小学校などで(僕は道徳の授業でした)江戸時代に暗い差別の歴史があった、と習いました。4段階の身分制度(士農工商)。そして、その下に被差別階級があった、と。実は日本ではその歴史自体が、なかったのではないかと。その認識は間違っているのではないかと。最新の歴史の教科書では、実はそんな歴史認識自体が間違っていた、というのが最新の学説となっております。子供たちの教科書から、その差別の歴史の記述自体が無

くなくなっているのです」「これは事実ではない。「士農工商の下に被差別階級」という説明ではなく、なっているのは事実だが、それは、町人・百姓とは異なる身分把握をされていたということであり、決定的な区別・差別は存在していた。その歴史自体が、なかった」というのはデマで

あり、教科書にも、江戸時代、「居住地や衣服・髪型などの点で他の身分と区別され、蔑視の対象とされ」「えた」などの蔑称で呼ばれた」身分があることについての記述はある。「自分はそれを知らなかっただけ」と問題をすり替え、デマをばらまくことは許されない。

## 日本維新の会の責任

長谷川は、今回の部落差別発言だけでなく、これまで「自業自得の人工透析患者なんて、全員実費負担にさせよ!無理だと泣くならそのまま殺せ!」など、数々の問題発言を重ねてきた。その人物を維新は国会へ送ろうとしていたのだ。そして、今回の問題発覚後も、公認を取り消さず、馬場幹事長は「長谷川さんの将来がかかっている」と「辞退」という形にこだわったという。差別発言の重大性を認識しておらず、政党としての責任は重い。「公認辞退」をしたから関係ないわけではない。維新の責任も追及しなければならぬ。

## 広範な人々と取り組もう

ヘイト・スピーチの問題に長年取り組んできた弁護士・師岡康子さんは著書『ヘイト・スピーチとは何か』(岩波新書、2013年)で次のように書いている。「ヘイト・スピーチは、このような差別構造の一部としてなされるからこそ、その一瞬の言葉による攻撃のみならず、幾世代にもわたる社会全体からの差別と暴力の恐怖、苦痛をよみがえ

らせるが故に、また、今後自分にして次世代の子どもたちに対しても一生繰り返されるかもしれない絶望を伴うが故に、マイノリティの心身に極めて深刻な害悪をもたらす」「もう一つの害悪は、偏見を拡散しステレオタイプ化し、差別を当然のものとして社会に蔓延させ、差別構造を強化することである」

長谷川の差別発言は、部落出身者にダメージを与え、社会における部落差別

の土壌をより強固にするものであり、ヘイト・スピーチである。私たちはこれを絶対に許してはいけません。部落解放同盟中央本部による確認会が7月、8月とおこなわれているが、長谷川が自身の部落差別発言について認め、反省し、公に謝罪するまで、糾弾の手を緩めてはならない。

また、今回の差別発言はネット上で拡散されることで問題となった。「長谷川発言のどこが問題なのか」

## 問題の発言内容

「日本には江戸時代にあまりよくない歴史がありました。士農工商の下に『えた』『非人』、人間以下に設定された人たちにも性欲などがあります。当然、乱暴なども働きます。一族野盗郎党となって十何人で取り囲んで暴行しようとした時に、侍は大切な妻と子どもを守るためにどうしたのか。侍はもう、刀を抜くしかなかった。でも、刀を抜いたときに、どうせ死ぬんです。相手はプロなんだから、犯罪の」

「僕らの世代は、小学校などで(僕は道徳の授業で)

「これは事実ではない。」「士農工商の下に被差別階級」という説明ではなく、なっているのは事実だが、それは、町人・百姓とは異なる身分把握をされていたということであり、決定的な区別・差別は存在していた。その歴史自体が、なかった」というのはデマで

あり、教科書にも、江戸時代、「居住地や衣服・髪型などの点で他の身分と区別され、蔑視の対象とされ」「えた」などの蔑称で呼ばれた」身分があることについての記述はある。「自分はそれを知らなかっただけ」と問題をすり替え、デマをばらまくことは許されない。

長谷川は、今回の部落差別発言だけでなく、これまで「自業自得の人工透析患者なんて、全員実費負担にさせよ!無理だと泣くならそのまま殺せ!」など、数々の問題発言を重ねてきた。その人物を維新は国会へ送ろうとしていたのだ。そして、今回の問題発覚後も、公認を取り消さず、馬場幹事長は「長谷川さんの将来がかかっている」と「辞退」という形にこだわったという。差別発言の重大性を認識しておらず、政党としての責任は重い。「公認辞退」をしたから関係ないわけではない。維新の責任も追及しなければならぬ。

といった声もあったが、それ以上に「まだ部落差別はなくなっていないと認識した」「許せない」と問題視する声があがった。この問題は部落解放同盟と長谷川豊、維新にとどまる問題ではない。差別をなくそうとする広範な人々と、情報を共有しながらつながり、ともに取り組んでいかなければならない。

本紙でも継続して取り上げていきたい。

- 2019年1月19日 長谷川豊が日本維新の会参議院全国比例公認候補予定者となる
- 2月24日 世田谷区議会議員選挙候補予定者の応援目的で講演、部落差別発言
- 5月15日 2月の講演の動画が動画サイトYoutubeに掲載される
- 5月21日 部落解放同盟中央本部が日本維新の会へ抗議文を提出
- 5月22日 部落解放同盟兵庫県連合会が日本維新の会へ抗議文を提出。長谷川が公式ブログに謝罪文を掲載
- 5月23日 朝日、毎日が新聞報道。日本維新の会が、長谷川の公認を「当面、停止する」と発表
- 5月24日 中央本部が長谷川に抗議文送付
- 5月27日 日本維新の会の松井代表が、人権問題の専門家らによる第三者委員会を開き、意見を聞いたうえで処分の方針を明らかにする
- 5月30日 第1回第三者委員会
- 5月31日 松井代表が、長谷川に公認辞退を促していることを発表。この申し出に応じない場合は公認を取り消す見通しを示す
- 6月10日 長谷川が公認辞退届を日本維新の会に提出。長谷川が公式ブログで居直り発言
- 6月12日 第2回三者委員会
- 7月10日 中央本部による第1回確認会
- 8月6日 中央本部による第2回確認会
- 8月27日 中央本部による第3回確認会